

1. オープンハウス

2022年9月30日(金)、10月1日(土)開催



大和公園の現況と課題 利用者のニーズを把握する



大和公園にてオープンハウスを2日間行い、合計約90名にご参加いただきました。

大和公園の現況や課題、公園利用者のニーズを把握するため、参加者の皆さんには、下記のワークの質問をさせていただき、ご意見を伺いました。

ワーク

「大和公園の良いところ、気になるところ」「将来どのような公園にしていきたいか」「公園のルール」についてご質問し、それぞれご意見をまとめました。

結果

ワークの結果以下のようなご意見を頂きました。(一部抜粋)

「大和公園の良いところ」

- ・ 遊具遊び場が充実した公園
- ・ 緑が豊かな公園
- ・ キャッチボールコーナーがある公園
- ・ 児童館がある
- ・ 立地が良い
- ・ 子ども達の遊び場
- ・ じゃぶじゃぶ池がある
- ・ 程よい広さ
- ・ 施設の充実
- ・ イベントの充実
- ・ 安心感がある

「大和公園の気になるところ」

- ・ じゃぶじゃぶ池が有効活用出来ていない
- ・ 遊具の不足(特に幼児用遊具)
- ・ 遊具の維持管理、安全衛生対策が出来ていない
- ・ 公園全体の防犯と安全が保たれていない
- ・ キャッチボールコーナーの改善
- ・ 利用ルール、マナーの徹底(主に夜間や早朝)
- ・ スペースの有効活用が出来ていない
- ・ 砂塵対策が出来ていない
- ・ 出入り口が分かりにくい
- ・ トイレが不衛生

「将来どのような公園にしていきたいか」 (公園の将来像)

- ・ 自然環境が豊かな公園
- ・ 遊具が充実した公園
- ・ 多世代多様性に配慮した公園
- ・ 子ども専用の公園
- ・ 地域の居場所となる公園
- ・ 憩い機能がある公園
- ・ 防災機能がある公園
- ・ 安心安全な公園
- ・ 球技ができる公園
- ・ 水景施設がある公園

「公園のルール」

- ・ じゃぶじゃぶ池のルールの工夫(小学生も使えるようにする、ルールを分かり易くする。)
- ・ キャッチボールコーナー以外のボール遊びルール
- ・ キャッチボールコーナーのルールの緩和
- ・ ルール掲示方法の工夫(サッカーやバトミントン等も遊べるようにする。)
- ・ 禁止事項をなるべく無くしたい

2. 第1回ワークショップ

2022年10月29日(土)開催

アイデアの検討



第1回ワークショップでは、オープンハウス、小学校・幼稚園・保育園を対象に行なったアンケート、関連団体に対するヒアリングの結果を踏まえ、理想の大和公園の将来像を実現するため、公園の改修方法について具体的に検討し図面にまとめていただきました。

ワーク

オープンハウスの結果を参考に理想の「公園の将来像」を選択していただき、実現するための具体的な方法を検討し、グループごと現況の平面図にまとめました。

結果

A班

球技ができる

- ボール壁当て、サッカーゴール、バスケットゴールなどの設置をしたい

自然と触れ合う場

- 木登り、泥遊び、草花遊び、虫取り、植物や生物の観察

広い世代が利用できる遊具 アスレチック遊具

- 幼児から大人まで、広い世代が利用できる遊具があると良い

くつろげる空間

- 自分たちで自由に使用でき、くつろげる広場などが欲しい
- 色々な世代との出会いの場になると良い

みんなで育てる花壇や畑

- 花壇や畑を設置したい
- 子ども達が花や種を植え育てるスペースが欲しい

みんなが快適に過ごせる

- 防犯、マナー違反对策をしたい
- 見通しを良くし、ゴミを捨てたり、夜中に人が集まり騒ぎにくくしたい

B班

思いっきり球技ができる

- ボールを思いっきりシュートできる空間が良い
- サッカーゴールを設置したい

季節ごとのイベント

- 季節を感じられるイベントを開催したい

自然と触れ合う場

- 樹木エリアは壊さない
- 子ども達の成長には自然と触れ合うことが大切
- 子ども達が自由に草花を摘んで、遊べる空間が良い

安心・安全

- やわらかい舗装にしたい
- 現在地面がダスト舗装で、けがをしやすい
- 砂埃対策にもなる

水辺空間

- 季節や幼児の枠にとらわれず水と触れ合える環境が良い
- せせらぎのような普遍に変化する水の流れる水景施設が良い



3. 第2回ワークショップ

2022年12月10日(土)開催



課題解決方針の設定

第2回ワークショップでは、前回のワークショップで頂いた、大和公園の将来像や改修方法の案及び設置したい公園施設に対して懸念事項や設置条件等、課題になる項目をお伝えし、解決方法や新しい案をより現実的に検討しました。また、大和公園に設置したい公園施設をまとめました。

ワーク

第1回ワークショップで頂いた、大和公園の将来像や改修方法の案及び設置したい公園施設を実現する際に、生じる懸念事項や設置条件、課題に対する解決方法や新しい案の検討をしました。

結果

ワークの結果、参加者の皆さんから以下のようなご意見を頂きました。

※一部抜粋（課題や条件等があるものを中心に掲載しております）

実現したい公園の将来像	実現方法 (第1回ワークショップ でのご意見)	課題、条件等	今回のワークショップでのご意見 (解決策)
球技ができる公園	ボール壁当て サッカーゴール バスケットゴール を設置する	ゴールネットは維持管理が必要 音が出て周辺への迷惑となること が懸念される	壁に的を描いてゴールにする ゴールは目印にする
水辺空間のある公園	水の流れ(せせらぎ)が ある水景施設を設置	公園のスペース不足	ドライ池を設置し、そこから 2m程のせせらぎにする 5cmでも良いから水がたまる 方が良い
自然環境が豊かな公園	泥遊びを できるようにする 木登りを できるようにする	維持管理(使用した後の手入 れや泥の補充など)が必要 利用者の危険を回避するため、 管理者が常駐する必要がある	砂場と同じような管理をする 地域主体で維持管理や運営で できるようにする 現在、木登りはプレーパーク で対応して頂いている
安心・安全公園	やわらかい舗装にする	芝生の舗装は維持管理が必要	人工芝は自然要素がなくなる クッション素材のような遊び スペースをつくる(遊具の下 など転倒時にけがをしないよ うなやわらかいもの)

4. 第3回ワークショップ

2023年1月21日(土)開催

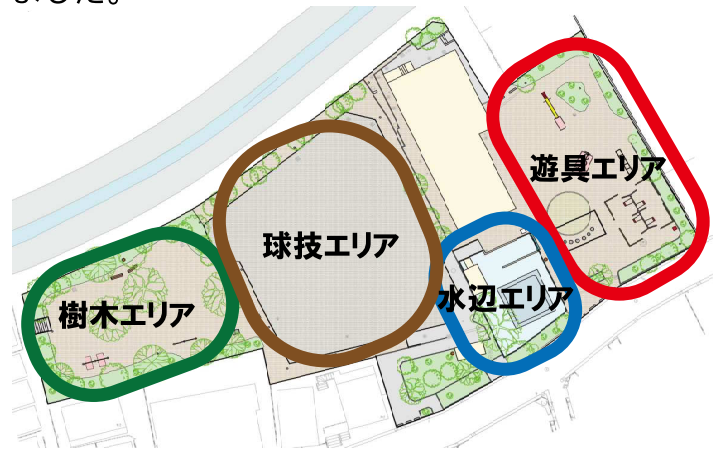


平面プランの 方向性を確定

目的

第3回ワークショップでは、今までのオープンハウスやワークショップを振り返り、整備コンセプトをまとめました。

また、大和公園に設置したい公園施設の設置可否、設置場所の検討、施設の規模の確認等を行いました。



今までのワークショップの皆さんのご意見を踏まえ、大和公園をそれぞれ異なった機能を持つ4つのゾーンに分け、改修を進める方針となりました。

- ・遊具エリア→遊具で遊べるエリア
- ・水辺エリア→水景施設があるエリア
- ・球技エリア→ボールで遊べるエリア
- ・樹木エリア→自然が豊かなエリア

ワーク1

今まで開催したオープンハウス、ワークショップで頂いた皆さんからのご意見を参考に、整備コンセプトに入れたい公園再整備のキーワードを検討していただき、皆さんのご意見を1つの整備コンセプトにまとめました。

結果

ワークの結果、参加者の皆さんから以下のようなご意見を頂きました。

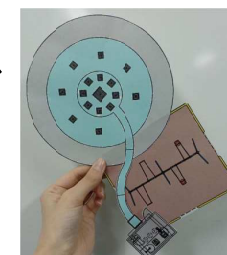
- 「住み分けできる公園」
エリアにより機能が異なるので、整備の際にエリアが別れてくれれば良い。
- 「思いっきり遊ぶ」
子ども達が落ち葉を集めて撒いたり、飛び込んだりするような遊び方は「思いっきり遊ぶ」という言葉の方がイメージは伝わりやすい。
- 「多世代が集まる」
公園では年齢を問わず遊ぶことが大事。
子ども達と関わることや、黙って子どもが遊ぶ様子を見守るのも公園の過ごし方だと思う。「みんなでつくる」の方がシンプルでわかりやすいため、「多世代が集まる」はコンセプトには入れなくても良い。
- 「みんなでつくる」
公園は子どもが遊べる場所でもあり、大人が集える場所である。
公園のこれからを考えることができると良いと思った。

決定した整備コンセプト

子ども達が自然と触れ合い思いっきり遊び、
みんなでつくる、安心安全な大和公園

ワーク2

第2回ワークショップで頂いた、大和公園に配置したい施設のご意見に対する、対応方針の回答と公園施設の設置場所を検討し、平面プランの方向性を確定しました。また、設置場所の検討は、模造紙に印刷した大判の図面に、取り外し可能なツールを当てはめて行いました。



結果

遊具エリア



- ・幼児も利用できるブランコへ更新
(オープンハウスにて幼児用遊具設置のご意見を多く頂いた点、第1回ワークショップでの広い世代が利用できる遊具にしたいといったご意見に考慮。)
- ・複合遊具の設置
(小学校、幼稚園・保育園アンケートで1番人気があった点に考慮。)
- ・砂場の樹木エリアへの移設
(複合遊具を設置するため樹木エリアへ移設する。地域での維持管理、運営が可能という目処がたった場合、泥遊び場として運用を開始する。)
- ・藤棚の撤去
(複合遊具を設置するため藤棚を撤去する。木陰となる場所にベンチ等の休憩施設を新設して対応する。)

※複合遊具は第3回ワークショップ時点のイメージです。



水辺エリア

- ・ドライ池、せせらぎの設置
(第1回WSでの「水辺空間やせせらぎの必要性」、「幼児以外もじゃぶじゃぶ池を使用できるようにしたい」などのご意見や再整備計画に考慮。)
- ・樹木下に休憩施設の設置
(藤棚の撤去に伴い、木陰になる部分に、縁台やサークルベンチ等の休憩施設を設置。)



球技エリア

- ・ボール壁当て、バスケットゴールの設置
(これらの施設は音が発生するため、公園の近隣住民の方々へアンケート調査を実施し、結果を踏まえ設置の可否を判断。)
- ・飛び出ている支柱のコンクリート基礎の対応
(子ども達の走り回る動線(フェンスの外側)に支柱の基礎が飛び出ている危険。)



樹木エリア

- ・泥遊び場の設置
(現在は砂場の開設を想定しているが、地域での維持管理、運営が可能という目処がたち次第、泥遊び場として運用開始する。位置は、現在プレーパークの方が仮設で泥遊びを実施している場所かつ水飲み場から近い場所とする。)
- ・鉄棒(低)を撤去または移設
(泥遊び場の設置に伴い撤去または移設する。)
- ・ビワの木の移植可否、西側階段部から河川沿い道路への子どもの飛び出し防止対策の検討

5. 近隣住民アンケート

2023年2月7日～2月14日実施

近隣住民のご意見を伺う



ワークショップやオープンハウス等で、公園の改修プランを検討する過程において、キャッチボールコーナー内へサッカーボールの壁当てやバスケットゴールを設置したいといった声が多く寄せられました。

こうしたご意見を受け、サッカーボールの壁当てやバスケットゴールの設置も含めた改修プランを可能な限り実現したいと考えている一方、キャッチボール以外の複数人でのボール遊びをすることは、騒音の問題により、近隣にお住まいの方々の日常生活に支障をきたす恐れがあります。よって、設置にあたり、近隣の方々のご意見を伺う等、慎重かつ丁寧に調整しながら改修プランに反映させるためアンケート調査を行いました。



アンケート実施範囲

アンケート概要

実施範囲：大和公園に隣接している宅地全 94 戸

実施期間：2月7日～2月14日

質問内容：サッカーボール壁当ての設置、バスケットゴールの設置に対するご意見

近隣住民の皆さんには、アンケート調査票に同封した以下の3つの概要説明資料を参考にいただき、アンケートにご協力していただきました。

資料 1

「サッカーボール壁当てとバスケットゴールの設置予定箇所を示した現況平面図」
(サッカーボール壁当てとバスケットゴールの設置は第3回ワークショップにて、参加者の皆さんとまとめた、球技エリア内の児童館側の位置になります。平面図をご参照ください。)

資料 2

「サッカーボール壁当てとバスケットゴールのイメージ写真」

資料 3

「大和公園ボール遊びに係わる音量調査結果及び騒音の目安」



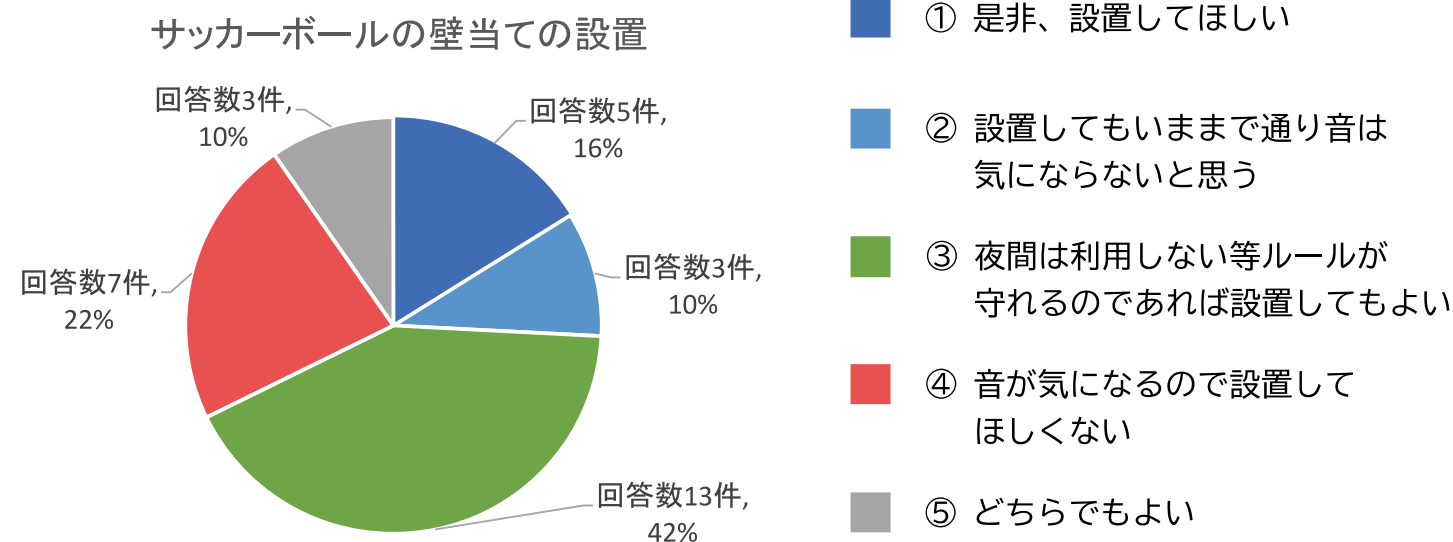
ボール壁当てイメージ写真



バスケットゴールのイメージ写真

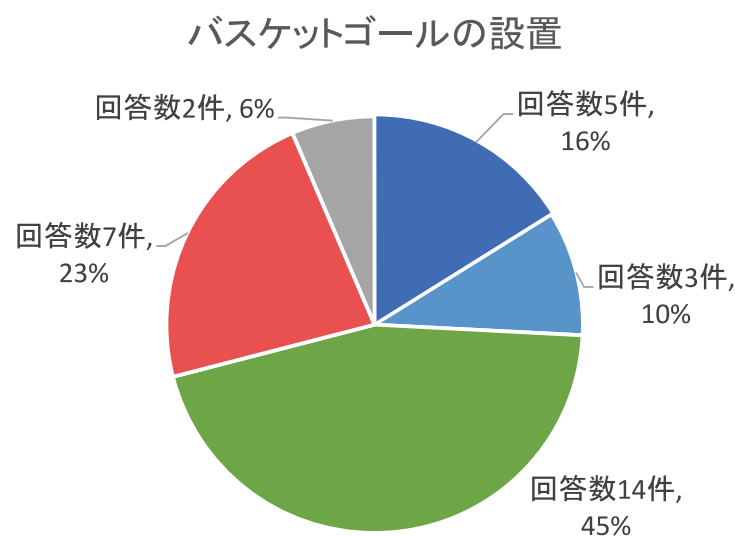
結果

アンケート調査の結果、94件中31件のご回答をいただきました。



- ① 是非、設置してほしい
- ② 設置してもいままで通り音は気にならないと思う
- ③ 夜間は利用しない等ルールが守れるのであれば設置してもよい
- ④ 音が気になるので設置してほしくない
- ⑤ どちらでもよい

他にこのような意見もいただきました



「元気に遊ぶ子ども達の声に癒されている。子ども達がのびのび遊べる場所が増えて欲しい。」

「壁当てやバスケットゴールが設置されるとボール遊びをする子どもが増え、キャッチボールコーナーの中だけで遊ぶというルールを守ることができるのか疑問」

「フェンスにボールが当たる音がうるさい」

「公園のすぐ隣に8年住んでいるが、日中は子ども達の楽しそうな声がする良い公園。」



アンケート調査の結果、「サッカーボールの壁当ての設置」「バスケットゴールの設置」において、設置に肯定的な回答項目①～③を選択した合計の回答数は、サッカーボールの壁当ての設置では21件(約68%)、バスケットゴールの設置では22件(約71%)でした。

また、選択肢③の「夜間は利用しない等ルールが守れるのであれば設置してもよい」の回答数が最多でした。

以上の結果より、今回のワークショップ平面プランでは、サッカーボールの壁当て及びバスケットゴールを設置することとしました。

今後は、選択肢③の「夜間は利用しない等ルールが守れるのであれば設置してもよい」を実現するため、夜間はキャッチボールコーナーを施設する等の対策を検討していきます。

また、選択肢④「音が気になるので設置してほしくない」との回答もあるため、地域との合意形成を図り、詳細な設計等の調整を進めていく予定です。

今後の実施設計や地域との合意形成の過程で、現在の平面プランから変更点が発生する可能性があります。